岡波総合病院 登録事業一覧

実施科	研究テーマ
内科	日本血液学会 血液疾患症例登録事業
	COVID-19に関するレジストリ研究におけるREBIND(新興再感染症データバンク事業)への情報提供
	血液凝固異常症全国調査
消化器内科	遠隔転移を有する高齢者肺癌に対する標準用量と低用量Gemcitabine+nab-Paclitaxel併用療法のランダム化第Ⅱ相試験
	肺癌早期発見のための新規スコアリングシステムの有用性に関する前向き研究
	術後再建腸管症例における切除不能悪性胆管閉塞に対し、超音波内視鏡下胆管ドレナージ術とバルーン内視鏡下胆管ドレナージ術の有効性に関する多施設共同前向き比較研究
	ERCP後膵炎防止とリンゲル液負荷の関連性についての前向き登録研究
	リンゲル液負荷によるERCP後膵炎予防に関するランダム化比較対照研究
	悪性輸入脚症候群に対する内視鏡治療の方法・成績に関する多施設後向き研究
	超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術における偶発症に関する多施設共同後向き観察研究
	切除不能悪性胆管閉塞に対する超音波内視鏡下胆管ドレナージ治療においてEUS-AS+HGSについての有効性に関する多施設共同前向き研究
	切除不能悪性遠位胆管狭窄に対する6mm径と10mm径のFull covered Self-Expandable Metal Stentsの多施設共同前向き比較試験
	膵腫瘍に対する超音波内視鏡下組織採取(EUS-TA)の再穿刺の有用性について
	胆管結石に対する内視鏡的結石除去術における既存バスケットと新規バスケットによる治療成績を比較する多機関共同無作為比較試験
超音波内視鏡下胆管十二指腸吻合術の安全性・有効性評価(多施設共同後向き検討)	
外科	一般社団法人 National Clinical Database (以下NCD) 症例登録
循環器内科	三重県における急性期冠症候群の急性期診療・予後に関する多機関共同研究
	スマートフォン搭載型心不全管理アプリケーションを用いた慢性心不全患者の予後とQOLに関するランダム化並行群間比較試験
	日本心血管インターベンション治療学会、J-PCIレジストリー(NCD)登録
泌尿器科	NCD症例登録
	本邦における精巣腫瘍患者レジストリの作成およびコホート研究の基盤創出
	前立腺癌患者における背景因子、初期治療に関する実態調査研究(NUJOURG研究調査)
	骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌患者におけるBone Scan Index(VSBONE BS)の有用性の検討
	泌尿生殖器および後腹膜腫瘍を対象とした手術療法・薬物療法・放射線療法・無治療監視療法の治療成績および合併症の包括的比較解析
	SOX11陽性前立腺癌(IDC-P)の細胞生物学的および臨床病理学的特徴に関する研究
	去勢抵抗性前立腺癌に対する治療成績および合併症に関する多施設共同研究 ― まほろばスタディー ―
脳神経外科	JAPAN NEUROSURGICAL DATA BASE (JND)
	奈良医科大学 くも膜下出血データベース事業参加登録
	適正使用指針第3版に基づく血管内再開通療法の安全性に関する調査研究
	レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査
心臓血管外科	NCD症例登録
	日本心臓血管外科手術データベース(JCVSD-成人部門)登録
	体外循環装置を用いた手術患者を対象とする、各種薬剤の術後合併症に関する後方視的観察研究
	三重県における急性大動脈疾患の急性期診療・予後に関する実態調査
整形外科	日本人人工関節登録制度参加
	広範囲骨欠損例に対する再建を目的とした加温滅菌処理保存同種骨移植に関する研究
	日本整形外科学会症例レジストリー(JOANR)構築に関する研究
	大腿骨転子部骨折における整復位調査
	変形性膝関節症患者が自覚する慢性疼痛と睡眠障害および抑うつとの関連性の検討―気候・気象に着目して―
眼科	三重県における網膜疾患の手術成績および手術成績に関与する因子に関する多施設共同後向き研究
婦人科	ニラバブの使用実績調査
小児科	日本における定期予防接種実施下での乳児に対するニルセピマブの受容性と安全性
放射線部	剪断波エラストグラフィにおける筋繊維の構造変化が骨格筋測定値に与える影響
検査部	膵超音波穿刺吸引細胞診断(EUS-FNA)時における残渣検体の臨床的意義に関する研究
リハビリテーション科	脳卒中患者におけるLeading Limb Angleの機能的要因について

通常、臨床研究やゲノム研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明・同意を行い実施をします。
 臨床研究のうち、患者さまへの侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用い研究等については、国が定めた指針に基づき「対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得る必要はありません」が、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされています。
 このような手法を「オプトアウト」と言います。オプトアウトを用いた臨床研究は上記の通りです。
 なお、研究への協力を希望されない場合は、上記文書内に記載されている各研究の担当科までお知らせください。